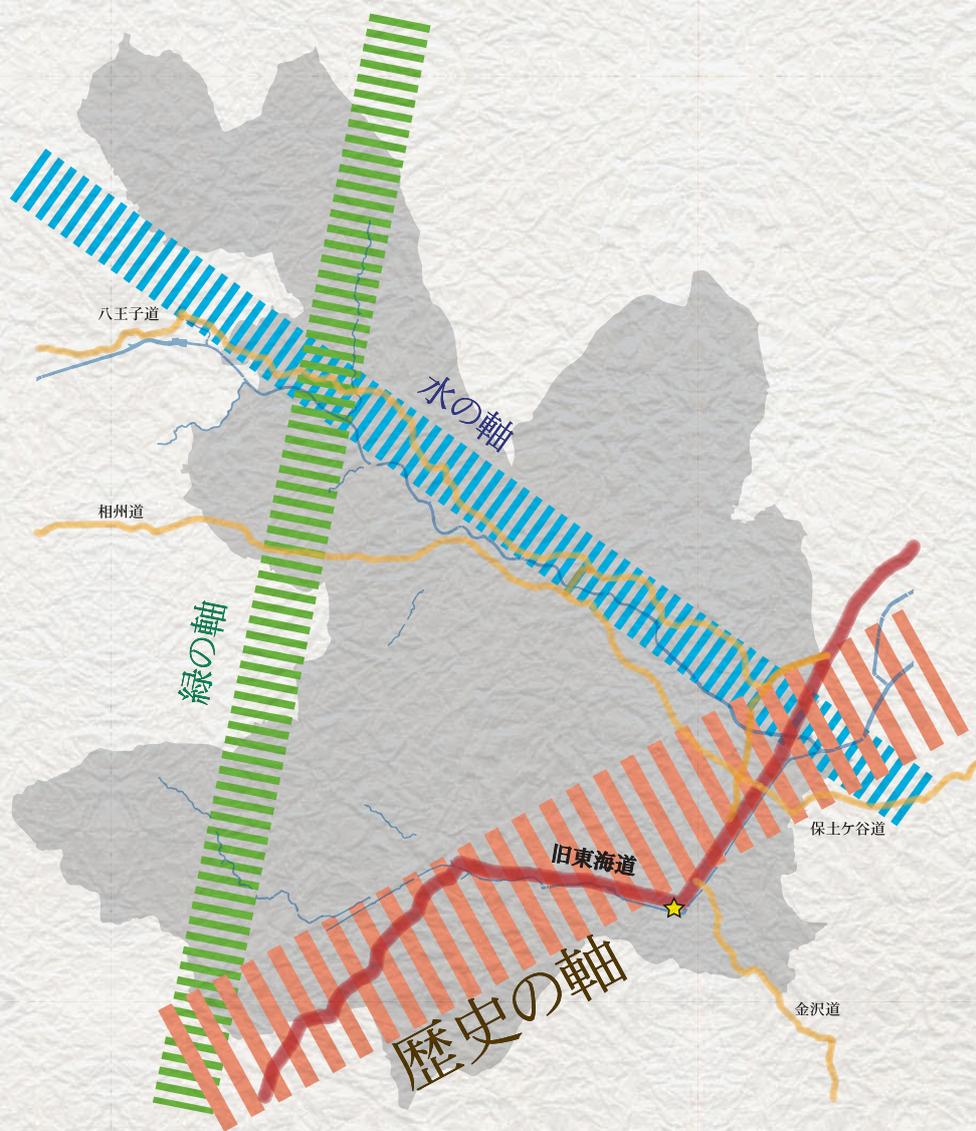


保土ヶ谷区
歴史まちなみ基本構想
～ 歴史を活かしたまちづくり ～

[概要版]



平成 19 年 3 月
保土ヶ谷区役所区政推進課

1. 「地域遺産」を活かしたまちづくりの基本的考え方

“住み続けられるまち”としての魅力づくり

これからの成熟型社会では、水や緑などの自然、商店の賑わい、交通の利便性、防犯、福祉の充実といった様々な要素を総合的にとらえてまちづくりを行うことが必要であり、「量」の充実だけではなく「質」の向上も求められています。多くの人が保土ヶ谷区に愛着を持ち、住み続けたいと思えるまちづくりは、保土ヶ谷区ならではの「地域の個性」を育むことに他なりません。

保土ヶ谷区は、縄文・弥生時代の遺跡、平安時代から存続する神社、江戸時代の交通・運輸の要衝としての旧東海道宿場町、明治時代の帷子川の水運を活かした工場地帯、東京や横浜という大都市の近郊部の別荘地や行楽地から発展してきた郊外型住宅地など、現在でもいくつもの時代の顔を、まちの中で感じることができます。

このように時代の動きに応じて柔軟に変化してきた保土ヶ谷区には、区内全域において、様々な時代の歴史資源が残されています。また、現在、それらの「もの」「こと」といった資源を大切に、さらに新たな魅力を付加していこうという市民レベルの活動が盛んに行われています。

本構想では、これまでの取組みをベースとして、保土ヶ谷区ならではの「もの」「こと」「ひと」といった「地域遺産」に着目し、“住み続けられるまち”をつくるためのビジョンを再構築し、その実現に向けた施策を検討します。

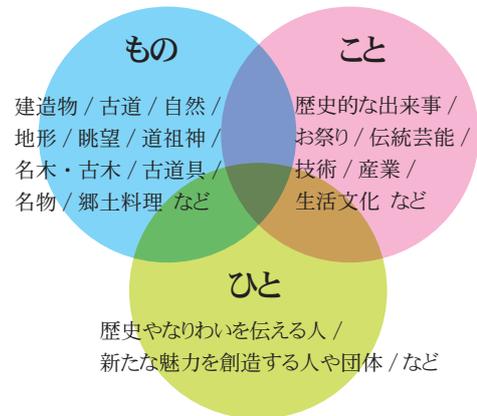
“住みやすいまち”、“住みたいまち”
から一歩進んで…

“住み続けたいまち”

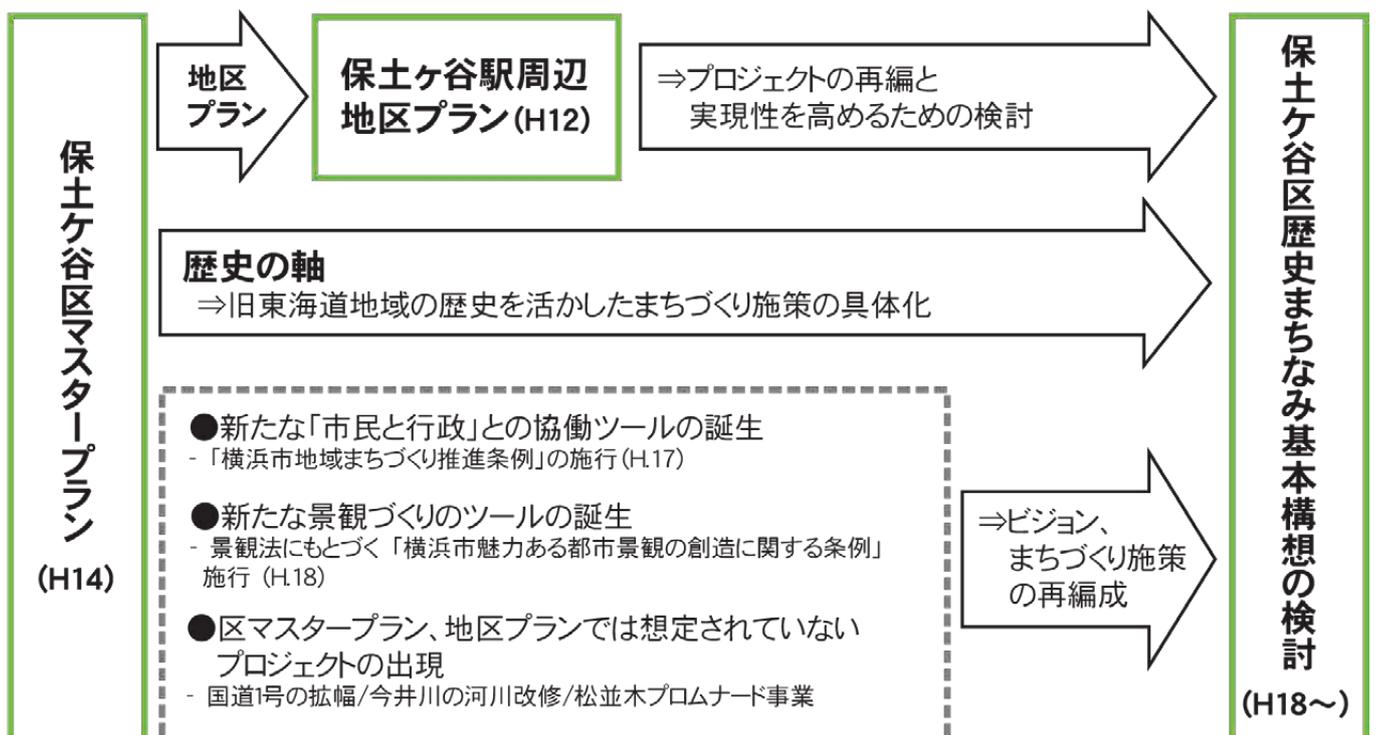


保土ヶ谷区の「地域遺産」を活かし、
保土ヶ谷区ならではの魅力をつくる

保土ヶ谷区の「地域遺産」



■本構想の位置づけ



2. 保土ヶ谷区の地域遺産

保土ヶ谷区の地域遺産には、歴史的建造物・眺望・緑・渓谷・名物・名産品などの「もの」、伝統芸能・お祭り・技術・産業などの「こと」、歴史を伝える人・技術を伝承する人・新たな魅力を創造する人などの「ひと」があります。

もの

復元された東海道の松並木・一里塚



復活を目指すかつての名産品であるじゃがいも



こと

印鑑屋の職人のわざとそれを支えてきた活字



地域の人により伝えられてきた川島囃子



ひと

桜ヶ丘の斜面緑地を守り育てる活動

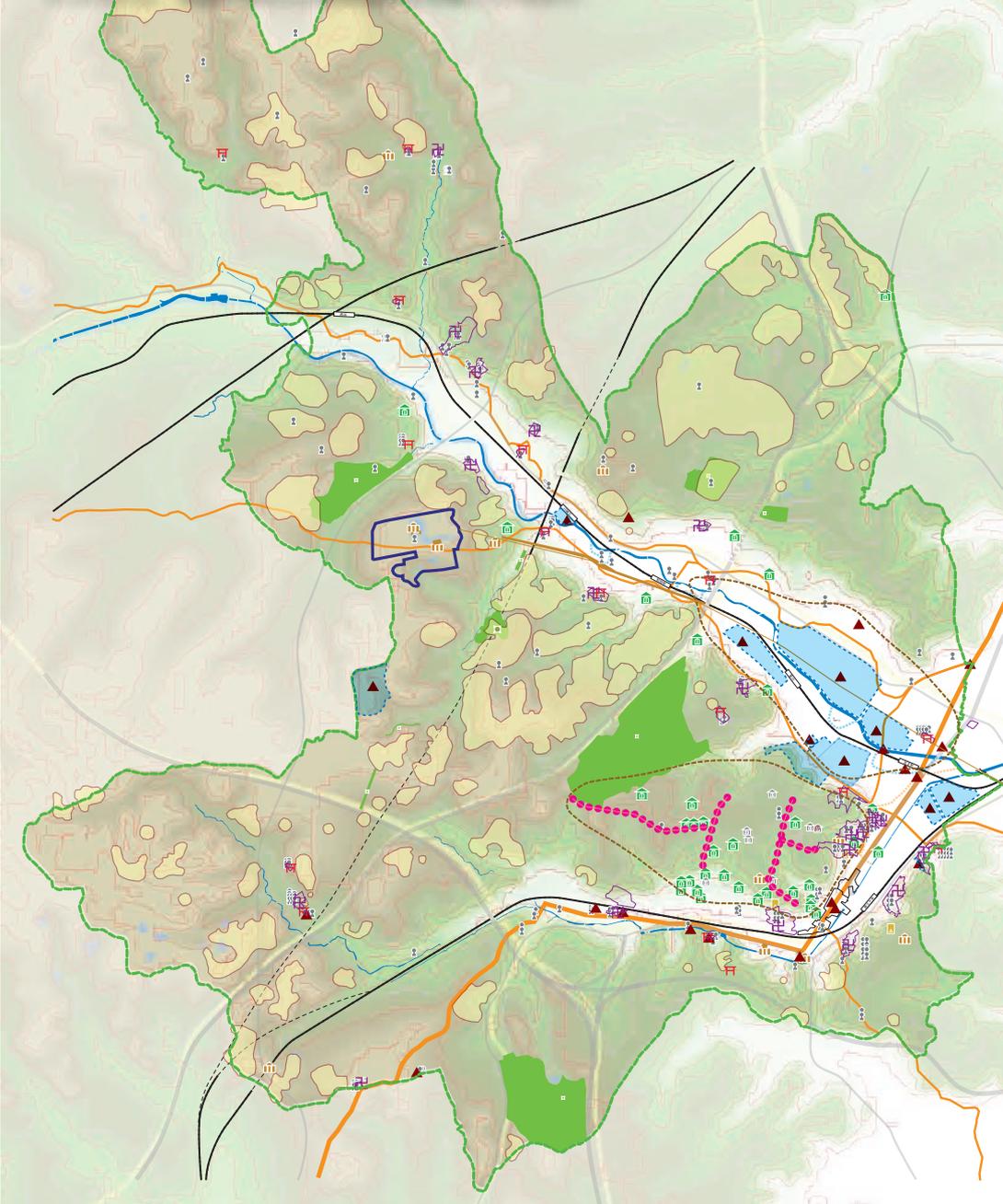


陣ヶ下渓谷の自然を活かした環境学習活動



■保土ヶ谷区の地域遺産の分布

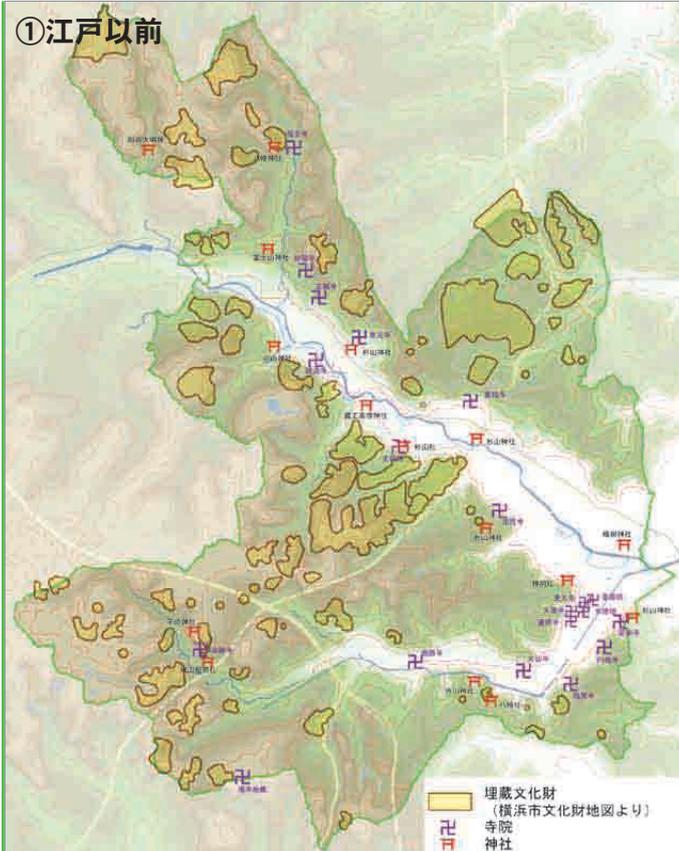
※これからも、地域の皆さんと地域遺産を発掘していきます。



凡例

- 区境
- ☪ 寺院
- ☩ 神社
- 寺社敷地
- ⊙ 石塔・石仏
- ⊙ 美術工芸品
- 公園となっている旧跡等
- 公園
- ▲ 橋
- ▲ 旧跡
- 工場跡地
- 遺跡範囲
- 鉄道
- 河川
- 旧川筋
- 古道
- 歴史的建造物
- 洋館付き住宅
- 洋館付き住宅(喪失)
- 耕地整理の範囲(文献資料からの推定)
- 耕地整理の際に植樹された桜並木

3. いくつもの時代の積み重ねが見られる保土ヶ谷区



■古くから人々が居住したことを示す遺跡・古墳

- ・保土ヶ谷区内には、帷子川、今井川の2河川を中心として、縄文時代、弥生時代の遺跡や、古墳が発掘されている。
- ・本陣南側（現在の保土ヶ谷橋近く）の台地から発掘された瀬戸ヶ谷古墳は、横浜を代表する古墳で、その規模、大きさ、埴輪が多く出土することなどから、帷子川、大岡川の両水系を支配した人物が埋葬されていると考えられている。
- ・今井町には、「山城（今井城址）」と呼ばれる丘があり、曲輪が残っている。記録は残っていないが、木曾義仲の重臣今井兼平の居城であったといわれている。

■多くの寺社の創建

- ・現存する寺社の多くは、平安～江戸時代初期に創建されたものである。

＜旧東海道地域の主な寺社＞

- ・遍照寺…876年開山
- ・大仙寺…970年開山
- ・神明社…970年（天禄元年）創建。1225年（嘉禄元年）から現在の地に存在。かつては大門があったことから、大門通りの名が残っている。
- ・橘樹神社…1186年（文治2年・鎌倉時代）創建（保土ヶ谷最古の庚申塔がある）
- ・八幡神社…1318年（文保2年）創建
- ・福聚寺…1335年（建武2年）創建



橘樹神社の庚申塔



今井城址の石碑

■交通・運輸・商業の中心であった保土ヶ谷宿

- ・1590(天正18)年に徳川家康が江戸に入ってから、保土ヶ谷付近も徳川氏の支配下に置かれることになる。
- ・1601(慶長6)年には東海道の伝馬制度が定められ、保土ヶ谷宿が置かれた。
- ・当時の保土ヶ谷の風景が数多くの浮世絵にも残されていることから、当時の保土ヶ谷宿の繁栄をうかがうことができる。
- ・街道沿いの寺院は、江戸時代に開山したものも多く、宿場としての繁栄をうかがうことができる。
- ・この頃に発祥した「川島囃子」は、横浜市無形文化財に指定され、伝統芸能として現在でも受け継がれている。

■庶民の信仰を示す石仏・石塔

- ・保土ヶ谷区の路傍や寺社境内には、江戸時代に建てられた数々の石仏・石塔が残されている。特に、庚申塔は数が多く、江戸時代前期から庶民の間で庚申信仰が盛んであったことがうかがえる。

■横浜の開港を支えた保土ヶ谷宿

- ・1859年（安政6年）に横浜が開港すると、保土ヶ谷から多くの商人が横浜（関内）に移住し、本陣軽部家の10代目の清兵衛悦甫が「横浜町総年寄」を担うなど、神奈川宿の商人と共に、開港初期の横浜の港や町の建設など、発展に大きな役割を担った。



旧東海道から金沢・鎌倉への分岐点に建つ道標（其爪の句碑）



本陣跡

③明治時代～戦前戦中



■耕地整理による発展の礎づくり

・明治 36 年から昭和 5 年にかけて、大規模な耕地整理が行われた。この耕地整理により、帷子川周辺の低地部では大規模工場の建設が可能となる一方、丘の部分には住宅地が形成され、現在の保土ヶ谷の骨格が形成された。

■別荘地・住宅地や大都市近郊の行楽地としての発展

・桜ヶ丘付近の丘陵部分には、洋館付き住宅（文化住宅）が多く立地し、ハイカラな雰囲気漂う住宅地として、大正から昭和にかけて人気を集めていた。また、程ヶ谷カントリー倶楽部、常盤園、桜ヶ丘の桜並木など、東京・横浜近郊の行楽地として栄えた。

■帷子川の水運を活かした工場地帯としての発展

・明治から戦前にかけて、帷子川沿いに多くの工場（麦酒、硝子、絹糸、曹達、紡績、捺染工場など）が立地したが、戦災や接収、公害などの環境問題が原因となり、徐々に保土ヶ谷から撤退していった。現在でも麦酒工場のあった付近には「ビール坂」という地名が残っている。

■「近代水道発祥の地 横浜」を支えた西谷浄水場と水道道^{すいどうみち}

・大正 4 年（1915 年）に「西谷浄水場」が完成した。また、津久井町から鶴ヶ峰を通り、野毛山配水池まで太い水道管が引かれ、今でもそのルートは“水道道”と呼ばれている。

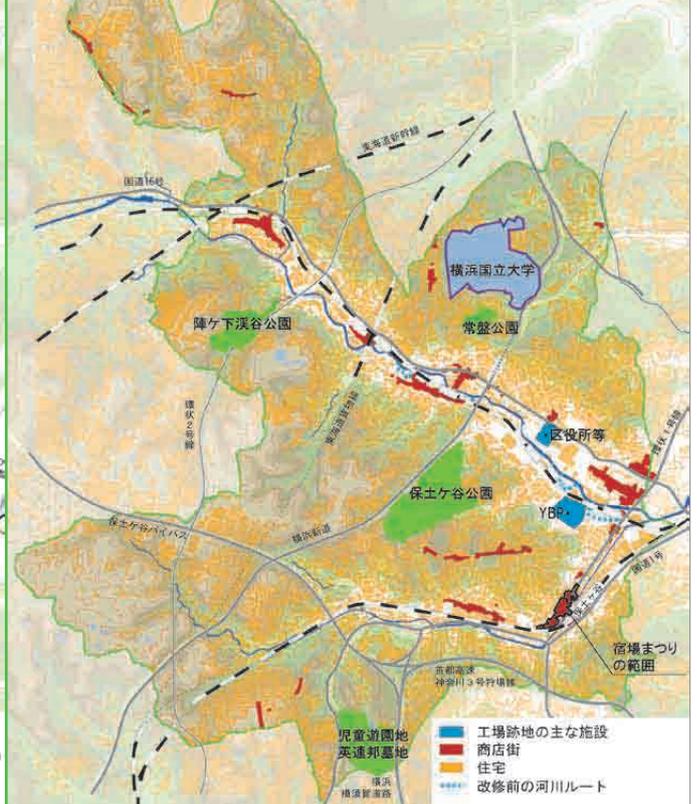


ビール坂から望む YBP



桜ヶ丘の桜並木

④戦後



■住宅地の増加

・区内には昭和 20 年代以降、大規模住宅の開発や数多くの団地が建設され、昭和 50 年代以降は民間企業による宅地開発が中心となってきている。
・大規模な宅地開発が進んだことにより、斜面緑地などの自然や農地が失われてきている。

■帷子川沿いの工場跡地の開発

・帷子川沿いの工場跡地には、横浜ビジネスパーク（YBP）や区役所等の行政機関の業務施設、団地などが建設され、区心部を形成している。

■地域の拠点となる公共施設への用途転換

・戦前や戦中に開設された大規模施設の多くは、戦後に英連邦戦死者墓地、保土ヶ谷球場等の都市公園、横浜国立大学などの公共的な施設へ転換された。

■河川、道路、鉄道などの大規模土木事業

・繰り返し水害を引き起こしていた帷子川や今井川の河川改修、新幹線、環状 1・2 号線、国道 1 号、保土ヶ谷バイパスなどの交通幹線のインフラ整備が行われている。
[現在、今井川河川改修、国道 1 号拡幅事業が進行中]

■特徴のある賑わいの形成

・昭和 25 年に戦災の跡地に松原商店街が形成された。現在では多くの商店が集積し、全国的にも有名な安売りの商店街として賑わっている。
・平成 2 年からは 駅周辺の商店街や区民が中心となり、「保土ヶ谷宿場まつり」が毎年開催され、旧東海道沿いのウォークイベントも開催されている。

4. 地域遺産を活かした魅力づくりの進め方

地域遺産を活かした魅力づくりを行っていくには、発掘→整理→発信→活用の流れが基本となります。

発掘や発信、活用に関する取組みは、これまで区内でも多く行われてきましたが、発掘した情報を「一元的に整理」して、誰でも簡単にその情報を閲覧できるようにし、活用しやすくすることが求められています。

区民と区役所との協働による、地域遺産を活かした活動や空間づくりが活発となるような仕組み、運用体制を検討していきます。

発掘

保土ケ谷区内に埋もれている
地域遺産を発掘する

■発掘の事例

- ・「ほどがや区民レポーター」
- ・「もっと知りたい保土ケ谷」
- ・「ほどがやまち探検」
- ・「保土ケ谷夢塾」
- ・「フォトアルバム思い出の保土ケ谷」
など多数



「ほどがやまち探検」での取材の様子



「フォトアルバム思い出の保土ケ谷」



整理・発信

発掘した地域遺産情報を
「一元的」に整理し、
多くの区民や区外の方に
発信する

■整理・発信の事例



「ほどがや区民レポーター」による
地域の様々な魅力情報のWEB発信



区内の魅力的な場所を集めた
「保土ケ谷 80KEI (景)」の冊子



活用

地域遺産を活かして、
保土ケ谷ならではの魅力を
創造する

■活用の事例



写真左：「松並木プロムナード」
国道一号沿いに松並木を
復元したプロムナードを整備
写真右：「武相国境モニュメント」
江戸時代の国境地点にモニュ
メントを設置



写真左：かつて保土ケ谷の名産品
であったじゃがいもを使った、子
どもたちの体験学習
写真右：保土ケ谷区産のじゃがい
もを使った焼酎の開発

5. 旧東海道地域の地域遺産を活かしたまちづくりの方針

特に多くの「地域遺産」が集積している、旧東海道を骨格とした「歴史の軸」を重点地区とし、先行的に取り組んでいきます。

[1] 個性と魅力ある住環境づくり

① 歴史的佇まい、場の記憶、緑、眺望などの地域遺産を活かして個性を育み、

保土ヶ谷区の魅力や生活文化を育む担い手となる住民にとって、魅力ある住環境を形成する。

- ・地形が生みだす眺望、緑地などの地域遺産を活かした、潤いと魅力ある住環境を形成する。
- ・歴史的建造物、洋館付き住宅、道祖神、古木など場の記憶を物語るものを保全し、深みのある住環境を形成する。



[2] 交流の活性化

② 旧東海道地域の地域遺産を活かし、地域住民間、地域住民と来街者間の交流機能を育てる。

- ・旧東海道地域の個性的な「点」である資源を顕在化し、来街者と区民の交流の場を増やすことで、多くの人が旧東海道地域を訪れたい魅力的なスポットを創る。
- ・江戸時代の宿場だけではなく近代以降の地域遺産も活かした、新しい魅力を持つ交流スポットを創る。



③ 地域遺産を活用した交流スポットを結び、巡り歩いて楽しめるまちを創る。

- ・魅力的な「点」を結び、楽しく快適に回遊できる旧東海道の歩行者ネットワークを創る。



[3] 持続的な魅力の創造の担い手育成

④ 保土ヶ谷区の個性や魅力を育む地域活動を活発化する。

- ・さらなる地域遺産の発掘や、保土ヶ谷区の魅力や文化を保全し創造する地域活動、来街者に対するホスピタリティあふれる活動を、持続的に展開する。



6. 旧東海道地域のまちづくりの考え方

■各エリアのまちづくりの方針

《賑わいとなりわい形成エリア》

- 保土ヶ谷ならではの「なりわい」や「わざ」を顕在化させて人々の交流を促進し、それらをネットワーク化させることで、まちの回遊性を創造する。
- エリア内の5つの商店街や、更には旧東海道地域内の7つの商店街で、連続的に賑わいを形成する。

《保土ヶ谷宿シンボルエリア》

- 旧東海道保土ヶ谷宿を象徴する歴史資源を活かして、個性を育み、交流を促す都市空間を創造する。
- 水・緑・歴史を活かし、潤いと厚みのある住環境を創造する。
- 国道1号の拡幅事業や今井川の河川改修事業と連携し、旧東海道の歴史性を活かした快適な歩行者空間を整備し、回遊性を向上させる。

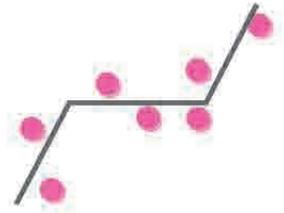
《歴史・緑・眺望のある権太坂エリア》

- 「境木ふれあいの樹林」や権太坂の松並木などを活かし、緑の豊かな環境を形成し、潤いと厚みのある住環境を守り育てる。
- 境木の歴史資源や権太坂の歴史スポットとしての魅力の維持・創出や、歩行者の安全性と快適性を確保することで、旧東海道を地区の生活動線の主軸とし、地域の生活空間としての魅力を向上する。

■「点」→「線」→「面」への展開

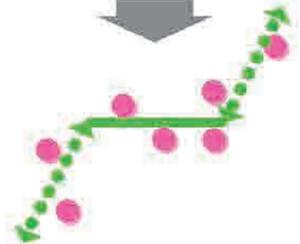
＜「点」プロジェクト＞

- 点在する魅力資源を活かし、巡り歩く目的地を創る。
- お休み処の整備やトイレの整備等により、歩ける下地を創る。



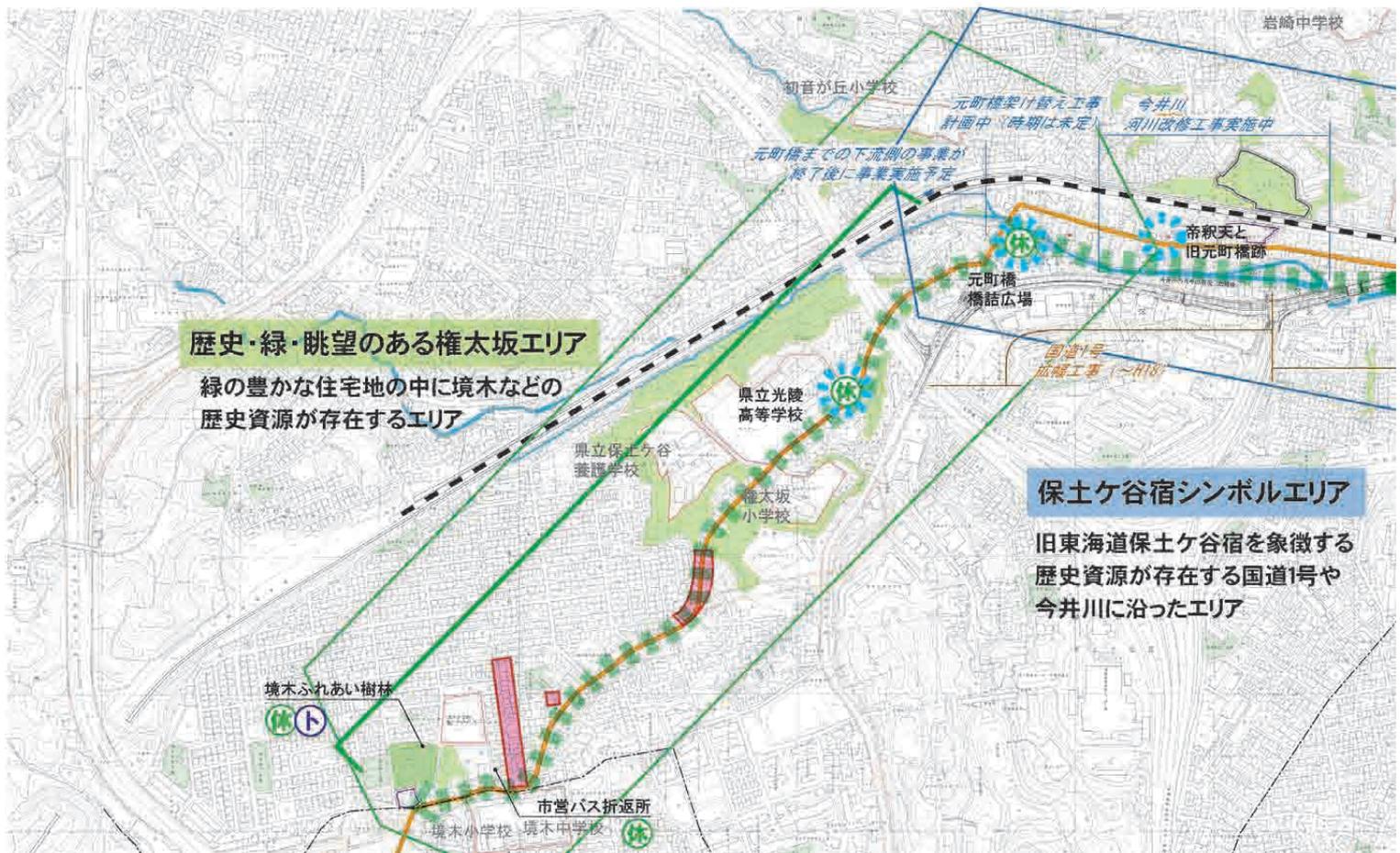
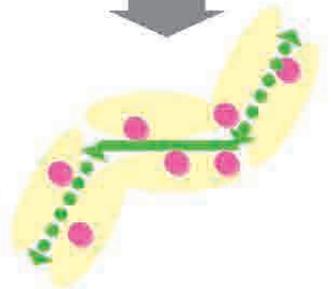
＜「線」プロジェクト＞

- 魅力をつなげ、歩いて楽しく、快適な環境を創る。



＜「面」プロジェクト＞

- まちづくりの効果を旧東海道の後背地へ広げ、エリアとしての特色を持たせる。



■主なプロジェクト(案) ※[]内の数字は次頁のプロジェクト番号

＜点＞

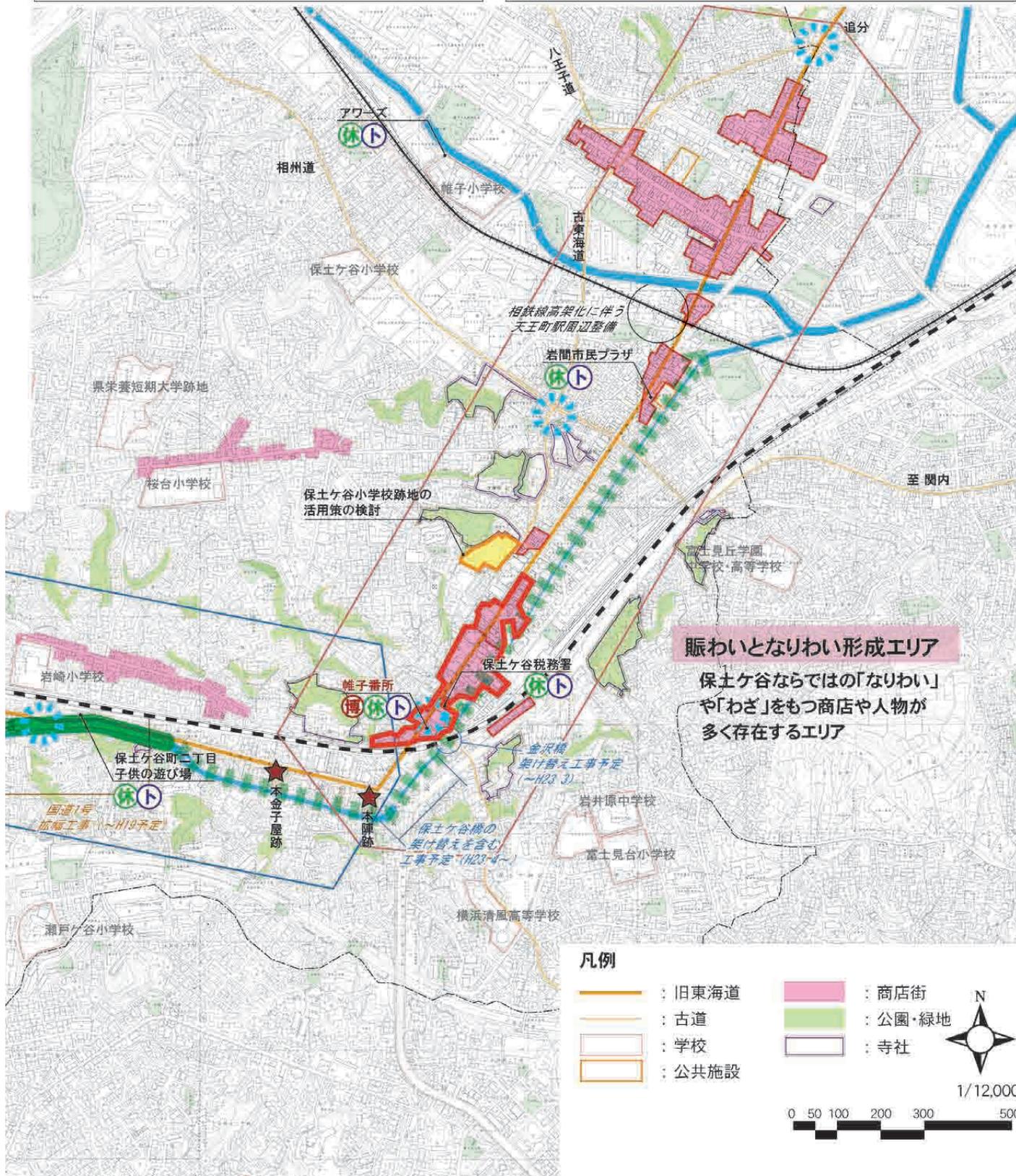
-  …サイン周辺の魅力づくり候補地[1]
 -  …まちかど博物館候補地[2]
 -  …お休み処の創出[3]
 -  …公衆トイレの設置[3]
 -  …歴史的建造物(本陣跡/本金子屋跡)の保全策の検討[4]
- 今後、協力者を募集していきます。

＜線＞

-  …現在の宿場まつりの主なエリア (保土ヶ谷駅西口商店街、帷子町1丁目さつき会)
-  …旧東海道沿道の商店街
-  …松並木・一里塚創造プロジェクト実施区間
-  …松並木プロムナード・ネットワークの形成[6]
-  斜体 …実施中もしくは検討中の公共事業[6]

＜面＞

-  …街並みルールづくりの検討[7]
-  …緑地保全策の検討[8]



7. 旧東海道地域のまちづくりプロジェクト（案）

[1] サインとサイン周辺の魅力づくり

→ 楽しく快適に歩ける環境をつくるため、旧東海道沿いの案内サイン周辺の魅力を高める。



- ・サイン周辺の植栽の充実
- ・背景となる建築物の壁面の色彩の変更
- ・隣接したスペースの小広場化



[2] まちかど博物館・保土ヶ谷宿郷土資料館

- 商店主等のご協力により、保土ヶ谷のなりわい、生活文化、技術などを物語る道具の展示や語り部による解説を楽しんで回遊できる「まちかど博物館」を街中に分散して設置し、来街者と区民との交流を促す。
- 保土ヶ谷の歴史や生活文化を育む契機となった宿場町時代や、その後の保土ヶ谷の歴史の積み重ねの展示や体験などができる施設による、ネットワーク型の郷土資料館をつくる。



商店主等のご協力によるまちかど博物館



昔の生活を物語るものの展示



昔から使われている印鑑の製造器具

[3] お休み処の整備

→ 旧東海道沿いに来街者や地元住民が一休みできる場を創出することで、歩きやすい環境づくり、住環境の向上、交流の機会の創出を図る。



【お休み処参考事例】
ベンチや檀家向けのトイレ、井戸、自動販売機などの設置



【区民トイレ制度イメージ】
管理者の善意によるトイレの貸出し



【区民ベンチイメージ】
土地所有者による敷地内へのベンチ設置
(区役所の支援や広告掲載も検討)

[4] 歴史的建造物の保全・活用

→ 保土ヶ谷宿の中心的な役割を担った「本陣」や、当時の旅籠の面影を残した「本金子屋」の敷地の一部は都市計画道路用地に含まれているため、保土ヶ谷区の貴重な歴史資源としての価値を再評価し、保全策を検討する。



「本陣跡」の敷地内の門



西口商店街からのアイストップとなる
本陣跡の建物



宿場時代の雰囲気漂う
本金子屋（旅籠）跡の建物

[5] 宿場まつり等の地域イベントの発展

- 旧東海道沿いの6つの商店街で連携し、旧東海道地域ならではのイベント等を実施する。(戦前まで年末に行われていた神戸市(ごうどいち)の復活 など)
- 旧東海道のまち歩きイベントなど、旧東海道地域で宿場まつりと同時期にイベントを行うことで、旧東海道地域全体に賑わいを創出し、魅力を発信する。



保土ヶ谷宿場まつり



旧東海道のまちあるきイベントの様子



[6] 松並木プロムナードネットワークの形成

- 今井川の河川改修や国道1号の道路拡幅の事業と連携して、旧東海道の歴史性を活かした快適な歩行者空間を整備し、回遊性を向上させる。
- 公共用地だけではなく、民地にも松を植えるなどして、旧東海道地域全体で潤いのある住環境を創出する。
- 生活動線の主軸となっている西口商店街や権太坂の旧東海道、古東海道沿いにおいて、コミュニティ道路化するなどして、安心して快適に歩ける歩行者空間を整備する。



松並木ネットワーク



今井川沿いの松並木ネットワーク



コミュニティ道路化による安全な歩行者空間づくり

[7] 旧東海道沿いの街並みルールづくり

- 旧東海道沿いの街並みに関するルールを定め、旧東海道の歴史性を活かし、個性と魅力のある街並みを創る。

【全域】

- ・大規模な集合住宅は、周囲の低層の街並みに調和し、圧迫感を出さない形態とする。
- ・駐車場やゴミ置き場を黒板塀で遮へいするなど、旧東海道の雰囲気大切にされた快適な歩行者空間を形成する。

【権太坂エリア】

- ・敷地の沿道部分を生垣緑化するなど、潤いのある歩行者空間を形成する。

【賑わいとなりわい形成エリア】

- ・歴史的な雰囲気を演出するよう、低層部の形態意匠を工夫する。
 - 共通な大きなのれんを店先に設置する。
 - 各店頭に昔の店の屋号の看板をつける。 など

【保土ヶ谷町エリア】

- ・歴史的な雰囲気を演出するよう、建築物の形態意匠を工夫する。
- ・沿道部分を緑化するなどして、潤いのある歩行者空間を形成する。



敷地内への松植樹



のれんによる街並み演出

[8] 住環境の魅力づくり

- 点・線のプロジェクトのエリアを拡大し、旧東海道の後背地を含めた旧東海道地域全域で、面として一体的に住環境の魅力づくりを進める。
- 斜面緑地の保全・育成や、眺望保全、街並みルールの誘導項目の拡大や内容の詳細化などにより、個性的で魅力のある生活景観を創造する。
- 古木や洋館付き住宅の保全・活用等により歴史的で落ち着いた雰囲気のある住環境を創造する。



権太坂からの富士山への眺望(シミュレーション)



花植えなどによる魅力づくり



斜面緑地の保全



洋館付き住宅



歴史的な雰囲気が漂う石垣

8. 構想の推進体制（案）

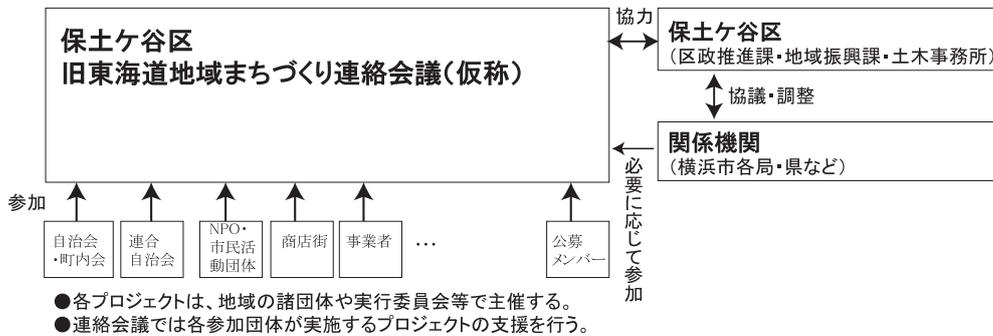
保土ケ谷区旧東海道地域まちづくり連絡会議（仮称）

●この構想を推進していくための組織として、「保土ケ谷区旧東海道地域まちづくり連絡会議（仮称）」（以下「連絡会議」）を発足します。

●連絡会議では、行政と協働し、「歴史を活かしたまちづくり」を通して、地域の良好な住環境の創出に取り組んでいきます。

<取組み>

1. 地域の方々のニーズ把握などの基礎調査を行い、その結果を構想の推進に活かしていきます。
2. 参加団体が実施しているプロジェクトなど、旧東海道地域のまちづくり情報の交換と協議調整を行います。
3. 構想の各プロジェクトを、地域の団体とともに実行していきます。



「歴史まちなみ基本構想の策定にあたって」

歴史まちなみ基本構想検討委員会委員長
高見沢 実（横浜国立大学大学院 助教授）

保土ケ谷区には、保土ケ谷宿をはじめとする多くの歴史的資源があるといわれていますが、本当にそうか、それらが本当に活かされているかという、実はそうでもないかもしれません。むしろ現代の都市はそうした大切なものを平気で忘れつつあるのが現状ではないでしょうか。

この検討委員会では、現時点において保土ケ谷区に残る歴史的資源をできるだけいねいに「再発見」し、どうやってそれらを活かしたらよいかを検討してきました。特に保土ケ谷宿を含む旧東海道地域については大きく3つの区間に分けて歴史的資源のみならず景観資源や自然資源などを整理し、さらにそれらに現在進行中の公共事業等を重ね合わせて、これからの街のあり方や可能性につき活発に意見交換してきました。

多くの委員やワーキンググループメンバーの共通理解が得られた部分もあれば、そこまで至らなかった部分もあります。既に実績が出ている部分もあれば、総論は賛成だが各論は課題山積という部分もあります。そのような意味も含めてまとめられたのが本報告書です。

これからは今回の検討を踏まえて、歴史や歴史資源をきっかけとしながら皆で身近な課題を議論し、力を出し合って楽しくまちづくりを進めていく段階です。幸いにも保土ケ谷区は人的資源にも恵まれています。検討委員会の中では解けなかった課題にも果敢にチャレンジし、新たな成果が生み出されることを願ってやみません。

平成 19 年 3 月吉日

「構想へよせて」

歴史まちなみ基本構想検討委員&ワーキンググループ統括
鈴木 伸治（横浜市立大学国際総合科学部 準教授）

幕末以降都市としての発展を見た横浜にあつては、歴史の積み重ねを感じる事ができる場所は意外と少ない。そういう意味で東海道の宿場町として発展した保土ケ谷は横浜のなかでも極めて歴史的に見て重要な場所であると思う。確かに目に見える歴史的な建築物は極めて少なく、宿場町をイメージさせる歴史的な資源も少ないかもしれない。しかし、われわれが目にしてる風景はこれまでの歴史の積み重ねや、文化といった地区の営みのごく一部を見ているに過ぎない。

歴史を活かしたまちづくりとは、目に見えるものだけでなく、その背後にあるものを含めてまちづくりを進めていくことであると思う。まち普請で行われた松並木プロジェクトもそうした営みの一つであり、これまでの地域住民の皆さんの様々な活動、想いの上に成り立っていることに敬意を表したい。

次年度以降は、地域の皆さんが主体となりこの構想を出発点としてアイデアを持ち寄り、実現につなげていくことになると思うが、歴史というキーワードを通して身近な環境づくりに挑戦してもらいたいと思う。

平成 19 年 3 月吉日

発行 歴史まちなみ基本構想検討委員会・ワーキンググループ
保土ケ谷区区政推進課企画調整係
〒240-0001 保土ケ谷区川辺町2-9
TEL：045-334-6227 FAX：045-333-7945
<http://www.city.yokohama.jp/me/hodogaya/matidukuri/index.html>



調査・編集 (株) 山手総合計画研究所

横浜市広報印刷物登録第 180724 号 種別・分類 B-QA010